

国

語

(45分)

次の文章は、高校一年生の「倉田舞衣子」と同級生の「美鶴」が会話をしている場面である。二人は乗馬クラブの指導員である「彩子さん」に連れられ、外乗（山や森の中を馬と散策すること）に出かけている。「舞衣子」は小学生の時に流鏑馬（馬に乗つて走りながら的を射る競技）の大會で優勝した経験があり、「彩子さん」はその当時、「舞衣子」のコーチであった。これを読んで、①～⑥に答えなさい。

「……私、馬に乗るのが怖いんだ。
そんな言葉が口をついて出た。
小学生のころ落馬したって話は学校でしたよね。あのとき、私が乗つていた馬もケガをしたんだ」

「うん」

「人間だつたら、脚の骨を折つたつて、手術して、リハビリすれば治るでしょ？ 私も大ケガしたけど、いまは普通に運動できるし。でも馬は

そうじやないんだ。脚のケガは、イコール命に関わる。それから炎症を起こしたときの痛みや苦しさも相当なんだつて」

落馬したときのことを、舞衣子は無理に忘れようとしていた。半面、

それはララに対する裏切りのような気もしていた。せめてもの償いは、ほかの馬に乗らないこと。舞衣子にとって、ララが唯一無二のパートナード。それを証明するための誓いみたいなものだつた。だから今回の外乗も、馬に乗ることだけは頑なに拒否した。

「さつきナナつていう馬がいたでしょ？ あの子、前に私が乗つてたララにそつくりなんだ。大きさは少し違うけど、顔とか脚の模様が同じで、見るたびに懐かしくて、それから苦しくて。ほかの馬には心が動かなかつたけど、ナナはどうしても気になつてしまつ。でも、心の中にいるララが、

『その馬は私じやないよ』つて訴えてくるんだ」

ふたりのあいだに、沈黙が流れた。ひとすじの風が吹き、草を舞いあがらせた。木の枝が、ざわざわと揺れる。

「ごめんね。学校で、事情も知らないで『流鏑馬やろう』なんて気軽に言つちやつて

神妙な顔で言う美鶴に、舞衣子は笑つてみせた。

心の中に溜まつていた涙が、ゆつくりと溶けていく。

流れしていく雲を見ながら、舞衣子は思つた。ララのこと、過去の栄光も、いまの自分を作つている歴史のひとつなのかも知れない。

しばらくすると、どこかの放送塔から昼の十二時を知らせるメロディが流れてきた。ムサシから降りた隼人が、彩子さんと一緒にこつちにやつてくる。

「舞衣子ちゃん、ナナに乗つていつてくれる？」

舞衣子はドキリとする。

「引いていつてくれてもいいんだけど、歩くより乗つたほうが楽でしょ。私も隼人くんと一緒にムサシに乗るから」

すると美鶴が「乗せてもらえばいいじやん」と舞衣子の背中を押した。「きつとララは、倉田さんに『ナナになら乗つてもいいよ』つて言つてくれてる気がする。私がこうして流鏑馬を始めたのも、乗馬クラブで倉田さんがアルバイトを始めたのも、タイミングよくララに似たナナがここにいたのも、すべて運命のめぐりあわせなんだよ」

すると彩子さんが、「そうだね。運命かもしれないね」と美鶴の言葉を補足するようになつた。

「ナナはね、まえに舞衣子ちゃんが乗つていたララの姉妹なんだよ」

「ララの姉妹？」

舞衣子が驚いて問い合わせると、彩子さんは「うん、ララとナナは、母馬が同じなんだ」と答えた。

「しばらく北海道の牧場にいたんだけど、戻つてこさせたの。ナナにとつてもこつちで過ごすのがいいと思つて」

彩子さんが、ナナがこつちで過ごすほうがいいと思つた理由。それは舞衣子にも心当たりがあつた。

あたたかな筋肉。脈動する肌。やさしい瞳。人間に甘える素直さ。

でもよく見ると、ナナの右の太腿には、うつすらと毛が生えていない箇所があつた。ブラッシングするときも、ナナはその部分を触られるのを嫌がつた。ずっと昔、ひどいケガを負つたのだろう。

舞衣子はハツとした。これは鞭の痕だ。

馬を飼育している牧場は限られている。だから祭りや神事、流鏑馬競技や体験乗馬のときは、牧場の馬を貸すことも少なくない。ただ、乗り手が馬の扱いに慣れているとは限らないから、故意にではなくても傷つけられてしまうことがある。

舞衣子の曇つた顔を見て、彩子さんは微笑んだ。

「でも、ナナは頭がいいし頑張り屋だからね。怖い目にあつても、こうして人を信頼してくれる、とってもいい子だよ。だから私は、この子に人間との絆を取り戻させたい。流鏑馬用の馬にしようと思つたのも、そのためなんだ。自分は特別だ。そう信じることが、馬にとつても人にとつても大切なことだから」

彩子さんは舞衣子の肩とナナの肩を順番に叩き、「とりあえず、腹減ったからさつさと山を下りるよ」と言つた。

彩子さんと美鶴から背中を押され、外乗の復路で舞衣子はナナに乗りこなした。

大きな体。歩を進めるたびに感じる振動。久しぶりに馬に乗つたけれど、舞衣子の脚は鞍にしつくり馴染んだ。

広場からの帰りは、ずっと下り坂が続いていた。きちんと整地されていない林道であつたが、馬たちは安定した足取りで歩いてくれる。はじめに馬にはもう乗らない。流鏑馬なんて絶対に無理だ。そう頑なに思つていた。

（出典 相戸結衣「流鏑馬ガール！」青森県立一本杉高校、一射必中！）

（注）ララ、ナナ、ムサシ——いずれも馬の名前。

（注）漬——液体にしづんだかす。ここでは心の底にたまつたもののたとえ。隼人——「美鶴」の弟。鞍——馬の背に置いて人を乗せる道具。

（注）アーノーの部分④、⑤の漢字の読みを書きなさい。

（①）アーノー名を連ねて い イ 爪二つである ウ 馬が合つて い イ 工 生き写しだ オ 匹敵する

（②）（③）（④）（⑤）（⑥）

（①）（②）（③）（④）（⑤）（⑥）

（①）（②）（③）（④）（⑤）（⑥）

（①）（②）（③）（④）（⑤）（⑥）

（①）（②）（③）（④）（⑤）（⑥）

（①）（②）（③）（④）（⑤）（⑥）

（①）（②）（③）（④）（⑤）（⑥）

（①）（②）（③）（④）（⑤）（⑥）

（①）（②）（③）（④）（⑤）（⑥）

（①）（②）（③）（④）（⑤）（⑥）

（①）（②）（③）（④）（⑤）（⑥）

（①）（②）（③）（④）（⑤）（⑥）

（①）（②）（③）（④）（⑤）（⑥）

（①）（②）（③）（④）（⑤）（⑥）

（①）（②）（③）（④）（⑤）（⑥）

（①）（②）（③）（④）（⑤）（⑥）

（①）（②）（③）（④）（⑤）（⑥）

（①）（②）（③）（④）（⑤）（⑥）

（①）（②）（③）（④）（⑤）（⑥）

（①）（②）（③）（④）（⑤）（⑥）

次の文章を読んで、①～⑦に答えなさい。なお、本文を大きく四つに分け、それぞれを「I」～「IV」としている。

【I】
私たちヒトは、主観的な世界を共有することができます。道端に黄色いタンポポが咲いている時、そこに黄色いタンポポが咲いているのを見るのはあなただけではありません。同じ道を歩く誰かもまた、そこに黄色いタンポポを見るることができます。

黄色いタンポポはあなたの主観的な世界に描かれていると同時に、誰かの主観的な世界にも描かれています。黄色いタンポポを介して、あなたはその誰かと主観的な世界を共有することができます。そのような共有するとのできる主観のことを、共同主観という言葉で表します。

ヒトは他者と世界を共有する動物です。ですが、他の生き物とヒトとは、

ここまで世界を共有できるものなのでしょうか。確かにそれの生き物は個々バラバラに世界を描いていて、それらを完全に理解し合うことは不可能です。けれど、何も共有し合えないかというと、そんなことはないはずです。

私たちヒトには、^(a)言葉という道具があります。「黄色」という言葉が多く

人の間で通じ、大きな翻訳も生じないのは、「黄色」という概念について

一定の理解があるからです。それが「黄色いタンポポ」であるということは、誰もが共有できることです。

【II】
もしこれが、他の生き物に拡張されたらどうなるでしょうか。

アレックスと名付けられたヨウム（オウムの一種）は、ヒトと言葉を介したコミュニケーションができた鳥として有名です。普通のオウムは言葉としてではなく、音としてヒトのしゃべる言葉を真似^(b)するのですが、アレックスは違います。^(c)一つひとつ言葉の意味を理解した上で、豊富な語彙を持ち、物の数や色や素材を区別し、あるいはカテゴライズし、自分の気持ちを言葉で伝えたりすることもできました。

アレックスとヒトは、互いの主観的に描いている世界を相互に交流することができたのです。アレックスはヒトの言葉を使うことができる、ヒト以外では数少ない生き物でした。

反対に、ヒトのほうが動物の側に寄り添って、彼らのボキヤブライマーを共有することもできるのかもしれません。

フレッシュはミツバチの「8の字ダンス」と呼ばれる独特な行動を通して、彼らが仲間に花の咲いている場所などの位置情報を伝達しているということを発見しました。それは、ミツバチの「言葉」をヒトが理解した数少ない事例の一つです。

私たちにはきっと、すでに他の生き物たちの描く世界を、少しずつ共有し始めています。

【III】

大切なことは、その生き物の暮らす世界の内側から、その生き物を理解しようと試みることではないでしょうか。

しばしばヒトは他の生き物を擬人化して理解しようとしますが、擬人化には様々な危険があります。本来はヒトとはまったく異なる原理で行動する生き物を擬人化してしまうことは、やはりその生き物の暮らしを文脈を無視するものです。

一方で、少しも擬人化することなく、他の生き物の世界を共有することができます、確かに存在するものもあります。擬人化をすべて否定する

ことは、そんな心の存在を無視することにつながります。

私たちが一般に「他人の立場になつて物を考える」ように、わからぬ部分については、差し当たり擬人化して、相手を理解していくことも大切です。

そこに誤りがあるかもしれません。そこには、その生き物の心も見ることができません。私たちヒトは、他の生き物の描く世界を知りません。他の生き物も

また、ヒトの描く世界を知りません。でも、ヒトの描いている世界は、知らず知らずのうちに、他の生き物の描く世界とつながっています。

ヒトは自分の描く世界がすべてだと考えがちです。でも、すべての生き物はそれぞれに独自の世界を描いています。

人間の強みは、そんな異世界の存在を他の生き物を通して知ることができます。つまりは、他者への理解、そして尊重ができるのがヒトの強みです。

多様な世界の存在を知り、感動を重ねられることが、他の生き物と共存する素晴らしいことではないでしょうか。

私たちの身边にそんな別世界を持つ生き物たちが、今も暮らしているのです。

生き物たちに教えてもらわなければならないことは、まだまだたくさんあります。多様な生き物たちの一つひとつ世界を尊重することは、私たちヒトに課せられた大事な使命といえるでしょう。

生き物たちがそれぞれに自分の世界を描き、ヒトと共に暮らしているということ。それを知るだけで、何だか世界が彩り豊かになつたようにも思いませんか。

（出典　野島智司「ヒトの見ている世界　蝶の見ている世界」）

（注）
翻訳——くいちがい。　カテゴライズ——分類する。
ボキヤブライマー——ことば。語彙。

フレッシュ——オーストリアの動物行動学者。

①　——の部分③、④を漢字に直して楷書で書きなさい。

②　——の部分A～Dの「ない」のうち、他の三つと品詞が異なるものはどれですか。一つ答えなさい。

③　「言葉」とあるが、言葉によってヒトはどうなことが可能になるか。これについて説明した次の文の□に入れるのに適当なことばを、文章中から十五字で抜き出して書きなさい。

④　「一つひとつ……」ともできます」とあるが、これがどのようなことの具体的例として用いられているかについて説明した次の文の□に入れるのに適当なことばを、文章中から四字で抜き出して書きなさい。

⑤　「ヒトに課せられた大事な使命」とあるが、これについて説明したとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　ヒトは、豊かな想像力を生かし、他の生き物の現状を考慮して貴重な生き物の絶滅に歯止めをかけ、その多様性を保つ必要がある。

イ　ヒトは、他者を理解する能力を生かし、他の生き物の多様な世界の存在を知り、それらを価値あるものとして重んじる必要がある。

ウ　ヒトは、道具を使う能力を生かし、生き物それぞれの暮らし方を理解して、生き物にとって住みやすい世界を構築する必要がある。

エ　ヒトは、他者を客観視する能力を生かし、描く世界が互いに異なる生き物が争うことのないよう、調整していく必要がある。

（6）「ヒトに課せられた大事な使命」とあるが、これについて説明したとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　「I」は、「IV」の結論に向か、ヒトが自分たちの主観的な世界のなかでしか生きられないという問題提起をしている。

イ　「II」は、「I」とは対照的な内容を述べることで、ヒトが他の生き物を捉える視点が多様であることを指摘している。

ウ　「III」は、「II」までの内容を受け、ヒトが他の生き物を理解しようとする際に用いる手段について話題を広げている。

エ　「IV」は、「III」まで述べてきた事例を否定することによつて、人間が本来果たすべき使命について結論づけている。

3

次の文章は、庭の作り方を記した『作庭記』について、その一節を引用しつつ書かれた解説文である。これを読んで、①～④に答えなさい。

作者とされる橋俊綱は、すばらしい山荘を持ち、頻繁に歌会などを催していました。冒頭「石を立てん事」の一部を引用しましょう。

国々の名所を思ひめぐらして、面白き所々を我がものになして、大姿をその所になぞらへて、やはらげ立つべきなり。

(広く諸國の名所に思いを馳せ、その土地の特徴や美点を十分理解したうえで、かつ、ありのままの自然をそのまま写すのではなく、その土地に似せて、庭園にふさわしいように、和らげて、石立てすべきである。)

庭園の石立ては、自然をそのまま写すのではなく、土地の特性をよく理解し、まず自分なりに解釈しなさいと教えています。ここで注目すべきは、「やはらげ立つ」ということばです。「やはらぐ」とは、荒削りの自然を人間社会にあてはめること、「自然」を「文化」へと変容させる作用を意味します。自然を人間社会になじむような文化へと変容させるという点で、和歌の見立てと共にしています。それでの土地の最も趣向ある風景を定め、しかもそれをそのまま写すのではなく、人間社会に調和するように再現するという意味で、庭園と和歌は同一方向を指向しているのではないでしようか。自然そのものの写実ではなく、人間社会の枠組みに合う「文化」へと変質した「自然」が求められているのです。

多くの歌人たちが寄り集つて歌を詠んだという俊綱の山荘には、意図的に作られた風景、自然が存在していました。いかにも本物に見せかけた、趣向を凝らした主人の意図を受けて、居合わせた人々は、歌を詠むという行為によって応じようとしたでしょう。贋物とわかつていながら、一種の演技でもつて歌を詠んだのです。日本の古典和歌における自然は、このように人間社会に同化された自然、作られた自然であったのです。

(出典 谷知子「古典のすすめ」)

4

【佳歩さんの発表】



【健一さんの質問】

「和」は「仲良くする」という意味で、しかも、「同調する」とは違う、と佳歩さんは説明していましたが、それはどういふことですか。「和」は「同」と、どう違うのですか。

① 「行書で書かれています」とあるが、漢字を行書で書いたときの特徴を、楷書で書いたときと比較して説明したものとして適當なのは、ア～エのうちではどちらですか。当てはまるものをすべて答えなさい。

ア 文字によつては、筆脈が点画の連続として表れることがある。イ 全体的に丸みがなく、直線的な点画で構成される傾向がある。ウ 速く整えて文字を書くため、点画の省略が生じる場合がある。エ 点画が変化することがあっても、筆順が変化することはない。

② 「有名な聖徳太子の十七条の憲法の一節」とあるが、佳歩さんはこの部分で、「以和為貴」ということば自体が有名だということを伝えようとしている。佳歩さんの伝えたいことが正確に伝わるように、「有名な」の位置を入れ替えてこの部分全体を書きなさい。



佳歩さん

【佳歩さんの発表】

公民館には、このようないふ額がかかつていています。「和を以て貴しと為す」と行書で書かれています。このことばは有名な聖徳太子の十七条の憲法の一節で、「他人と仲良くすることは何よりも大切なことだ」という意味です。公民館の館長さんにお話をうかがうと、この「和」というのは、「和して同ぜず」という「論語」のことばにもあるように、単に他人の意見に同調することではないです。違う意見の人どうしが仲良くしていくことが大切だということを教えていることばだと思います。

① 「行書で書かれています」とあるが、漢字を行書で書いたときの特徴を、楷書で書いたときと比較して説明したものとして適當なのは、ア～エのうちではどちらですか。当てはまるものをすべて答えなさい。

ア 文字によつては、筆脈が点画の連続として表れることがある。

イ 全体的に丸みがなく、直線的な点画で構成される傾向がある。

ウ 速く整えて文字を書くため、点画の省略が生じる場合がある。

エ 点画が変化することがあっても、筆順が変化することはない。

② 「有名な聖徳太子の十七条の憲法の一節」とあるが、佳歩さんはこの部分で、「以和為貴」ということば自体が有名だということを伝えようとしている。佳歩さんの伝えたいことが正確に伝わるように、「有名な」の位置を入れ替えてこの部分全体を書きなさい。

資料Ⅲ 【国語辞典の記述の一部】

「同調」——ほかの人の意見や行動などに、調子を合わせること。
「協調」——考え方の違う者どうしが協力し、うまくまとまるること。

資料Ⅱ 【漢和辞典の記述の一部】

「和」——①仲良くなる。②まとまった状態。調和する。
「同」——①ひとつになる。一致する。②主体性なく合わせる。

- ① 「やはらげ」の読みを、現代かなづかいを用いてひらがなで書きなさい。
- 文の□に入れるのに適当なことばを、解説文から七字で抜き出して書きなさい。
- ② 「我がものにして」とあるが、これがどういうことを説明したものとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
- ③ 諸国の名所の特徴や美点を□するということ。
- ④ 「庭園と和歌は同一方向を指向している」とあるが、これについて素性法師の和歌を例に挙げながら説明した次の文のX、Yに入れると最も適当なことばを、Xは解説文から二字で抜き出して書き、Yは解説文のことばを使って十字以内で書きなさい。

見渡せば柳桜をこきまぜて都ぞ春の錦なりける 素性法師
この和歌は、見わたす限り、柳や桜に満ちた、色鮮やかな春の都の風景を、まるで豪華な錦（金や銀の糸で織つた美しい模様の高価な絹織物）のようだというXを用いて表現している。これと同様に庭園は、自然をそのままの写実ではなくYとして再現するものであり、この点で庭園と和歌は同一方向を指向している。

- ③ 健一さんが質問をした意図として最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
- ア 聞き逃した内容について、もう一度確認しようとしている。イ 発表内容の誤りについて指摘し、訂正を促そうとしている。ウ 話題を変え、発表者の個人的意見を引き出そうとしている。エ 発表を聞き、生じた疑問点について解決しようとしている。
- ④ 健一さんから出された質問に対する答えとして、「和」とはどういうことかを、条件に従つて八十字以上百字以内で説明しなさい。
- 条件
- 1 一文目に、資料Ⅰ～資料Ⅲを踏まえて、「同」との違いがわかるように、解答欄の書き出しに続けて説明すること。
(出典 田部井文雄「漢文塾—漢字文化の魅力」)
- 2 二文目以降に、あなたが考える具体例（見聞きしたことや体験したことなど）を挙げ、「例えば」に続けて書くこと。
- (注) 君子——人格が立派な人 小人——人徳のない人

資料Ⅰ 【論語】の解説文

子曰はく、君子は和して同ぜず。小人は同じて和せず、と。孔子が言うことには、「君子は、人々と協調はするが、いいかげんに妥協することはしない。(それに反して)小人は、すぐに他人に同調してしまつて、本当に協調することはできない」と。

(注) 君子——人格が立派な人 小人——人徳のない人

資料Ⅲ 【国語辞典の記述の一部】

「同調」——ほかの人の意見や行動などに、調子を合わせること。
「協調」——考え方の違う者どうしが協力し、うまくまとまるること。

I
玉

I
国
(1)

注

字数が指定されている設問では、「、」や「。」も一まず使いなさい。

受番 檢号
(算用数字)
志願校

解 答 用 紙

(4)	(3)	(2)	(1)
	「和」というのは、		